

深圳职业技术学院学术著作出版基金

日本古典短歌与 唐诗的隐喻认知研究

日本古典短歌と唐詩の隱喩に関する認知言語学的研究

张继文 著



大连理工大学出版社

深圳职业技术学院学术著作出版基金

（中国）出版业

日本古典短歌与 唐诗的隐喻认知研究

日本古典短歌と唐詩の隱喩に関する認知言語学的研究

张继文 著

大连理工大学出版社

（大连理工大学大连理工大学大连理工大学）

（大连理工大学大连理工大学大连理工大学）

（大连理工大学大连理工大学大连理工大学）

（大连理工大学大连理工大学大连理工大学）

（大连理工大学大连理工大学大连理工大学）

（大连理工大学大连理工大学大连理工大学）

（大连理工大学大连理工大学大连理工大学）



大连理工大学出版社

图书在版编目(CIP)数据

日本古典短歌与唐诗的隐喻认知研究/张继文著. —大连:大连理工大学出版社, 2009. 7

ISBN 978-7-5611-4917-1

I. 日… II. 张… III. ①古典诗歌—隐喻—文学研究—日本②唐诗—隐喻—文学研究 IV. I313.072 I207.22

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2009)第 105366 号

大连理工大学出版社

张继文著

大连理工大学出版社出版

地址:大连市软件园路 80 号 邮政编码:116023

发行:0411-84708842 邮购:0411-84703636 传真:0411-84701466

E-mail: dulp@dulp.cn URL: <http://www.dulp.cn>

大连金华光彩色印刷有限公司印刷 大连理工大学出版社发行

幅面尺寸:140mm×203mm 印张:11.75 字数:292 千字
2009 年 7 月第 1 版 2009 年 7 月第 1 次印刷

责任编辑:王佳玉 于 洋 责任校对:张 宇
封面设计:苏儒光

ISBN 978-7-5611-4917-1

定 价:30.00 元

隐喻是一个古老的问题，人类对语言中隐喻的探讨最早可以追溯到两千多年以前亚里斯多德的时代。但是，隐喻又是一个崭新的问题，因为当今的语言学者正在从新的角度重新关注隐喻。

20世纪80年代发展起来的认知语言学理论架起了客观世界和主观世界之间的桥梁。认知语言学的隐喻理论认为，隐喻作为一种语言表达形式，不仅仅是一种修辞手段，更是人类认识客观世界、把握客观事态的重要认知手段。隐喻的基本功能是从根源域向目标域映射，从而使抽象的思维通过具体的经验获得感知。这就为语言学、文学尤其是诗歌的研究提供了一个全新的研究视角和研究方法。

本书以中国的唐诗和日本的短歌作为研究对象，运用认知语言学的理论和方法研究了中日古典诗歌中的隐喻认知模式，并通过考察中日古典诗歌中的隐喻现象来探讨古代人们的思维模式和认知方式，为历时的隐喻研究提供了新的基础。唐诗是中国古代诗歌的杰出典范，体现了中国古代诗人高度的语言艺术；而《古今和歌集》所代表的日本短歌则是平安时期日本歌人努力摆脱汉文学的影响、试图建立本国文学传统的一个体现，充满了日本古代歌人的语言才能和智慧。作者选择这两者作为对比研究的对象，可以说是具有敏锐的观察力和成熟的思考。本书的研究充分吸收了现有的研究成果，从隐喻的语言修饰功能研究转入对隐喻认知本质的探讨，以唐诗和短歌为切入点，完整归纳了中日古典诗歌中隐喻的语言形式，阐述了古典诗歌隐喻的理解与模式。透过文字的表面，看到了隐喻与

人类思维的关联。本书所建立起来的古典诗歌隐喻的理论框架，将隐喻研究向前推进了一大步，开辟了中日隐喻对比研究的新领域，对于国内的隐喻研究具有重要的学术价值和实际意义。

本书的作者张继文博士具有深厚的日本文学研究基础，在进入广东外语外贸大学日语语言文学博士课程学习之前，已经从事了较长时间的日语教学与研究工作，发表了很多论文、译著。入学之后改而从事认知语言学的研究，通过本人的勤奋和努力，很快就掌握了语言学的基础理论和研究方法，并结合语言学和文学的研究，在短短三年里完成博士论文的同时，还积极在外语类核心刊物上发表系列论文，并获得了“2008年度广东省南粤优秀博士研究生”的称号。

张继文的论著即将付梓，我为之感到欣慰和喜悦。学术之路无止境，期待着作者更加努力，不断创新，成果斐然！

广东外语外贸大学教授、博士生导师

陈访泽

2009年7月10日于白云山麓

摘要

本研究运用认知语言学理论,通过对中日古典定型诗——唐诗和《古今和歌集》中短歌的隐喻进行的考察,探讨了认知隐喻学理论引入古典诗歌隐喻研究的意义,分析了古典诗歌的隐喻语言构造、隐喻概念扩张和隐喻产生的基础,阐述了古典诗歌隐喻的认知理解与认知解释的模式。

隐喻是一个古老的问题。两千多年前的亚里斯多德曾在他的著作中有相当篇幅是关于隐喻的定义和思考的论述。长期以来,隐喻作为修辞学或修辞手段而倍受关注。进入20世纪60年代后特别是80年代,莱考夫和约翰逊(Lakoff and Johnson 1980)、莱考夫(1987)、莱考夫和特纳(Lakoff and Turner 1989)构筑了隐喻是从根源域向目标域映射这一定义。认知理论认为,隐喻不仅仅是一种修饰形式,更重要的是认知事物的一种手段,隐喻的基本作用是从根源域向目标域映射的过程,使得大部分抽象思维通过体验获得感知,在认识新事物、构建新概念、建立推理机制以及形成思维方式等方面,揭示了人类认识客观世界的能力。

隐喻在唐诗和《古今和歌集》中普遍存在,并一直被认为是唐诗和短歌表现的一大特色,但在传统的研究中,大多局限在修辞层面。认知隐喻学理论能否在古典诗歌研究中得以运用,这是本研究的一个尝试。

七世纪初开始到十世纪被称为是唐诗和唐代诗人的世界,唐诗和成书于十世纪初的《古今和歌集》之间有着一定的

关联,也存在着共同点。正因如此,对于两者之间共存的隐喻现象,传统的研究成果大多简单地将两者归因于和歌创作过程中对唐诗的模仿和借鉴,并且都认为隐喻所起的作用只不过是语言的修饰或装点。

根据认知语言学理论,我们可以认为中日古典诗歌隐喻的相同与不同反映出人们认知事物方法的同与异,隐喻所反映出的是古人认识事物的方法、思考的角度和思维的方式等。对古典诗歌的隐喻研究,也是对一千多年前人们的思维意识、认知模式、表达方式乃至价值观、世界观进行研究与把握的一种途径。

诗歌的意境是通过语言得以展现出来的,在语言层面,对诗歌的隐喻构成的要素、语言单位、隐喻句型的系统归纳是本研究的基础;在隐喻概念的跨领域扩张层面,对空间隐喻、存在隐喻、构造隐喻、通感隐喻以及拟人性隐喻在中日古典诗歌中的表现进行考察,是本研究的进一步深化;古典诗歌中的隐喻其产生基础是感性、智力构筑的认知基础和人们的经验基础;如何正确、完整地理解古典诗歌的隐喻诗句又是本研究的关键。根据认知语用学原理,从类似性的把握、推理手段、协调原则、关联性理论的运用以及结合文化背景等几方面对古典诗歌的隐喻理解机制进行探讨,寻求隐喻解释的理论原则。

从认知语言学的角度出发,对延续千年、至今仍被人们所喜爱的古典诗歌进行分析,将有助于对唐诗和短歌内涵的深入理解以及透过隐喻语言表层来把握事物的本质。同时,通过抽取古典短歌中的隐喻进行研究,将有助于与今天的隐喻表达形式进行比较,进而促进历时的日语隐喻研究。

通过运用认知语言学理论对中日古典诗歌中的隐喻进行深层的探讨,实现了从语言修饰的表面研究到对隐喻乃至古人认知本质探讨的转向,这是一个比较前卫的探索性研究。

要 旨

本研究は認知言語学の視角から、中日古典定型詩である唐詩と『古今和歌集』の短歌の隠喩について分析を試みる。古典詩歌の研究における認知隠喩理論の応用の意義を述べ、古典詩歌の隠喩の言語構造、隠喩の概念拡張及び隠喩の基盤を分析し、古典詩歌の隠喩の理解、解釈のメカニズムに関する手段を講じる。

隠喩への関心は長い歴史を持っている。二千年以上前のアリストテレスの著作には、隠喩の定義、隠喩の思考についての論述が数多くあった。それ以来、隠喩はつねに修辞学あるいは修辞手段の中心的な関心のまとなっている。二十世紀六十年代後半、特に八十年代から、レイコフとジョンソン (Lakoff and Johnson 1980)、レイコフ (1987)、レイコフとターナー (Lakoff and Turner 1989) によって理論的に整備された概念で、根源領域から目標領域への概念的写像として定義づけられる。隠喩は単なる言語的装飾の事柄ではなく、物事の認知の手段であると認められる。隠喩が根源領域から目標領域へ写像を投射する過程において、ほとんどの抽象的思惟は体験により感知を獲得できる。新しい物事の認識、概念の構築、推理メカニズムの確立及び思惟方式などを通し、人間の客観的世界を認識する能力が明らかに示されている。

唐詩及び『古今集』の短歌には隠喩表現が大量に存在し

ている。隠喩は唐詩と短歌の創作における大きな特色の一つとして見なされる。今までの研究では、修辞学の領域に止まっている。そこで、本研究では古典詩歌の研究に認知隠喩理論を如何に応用するのかを検討する。

七世紀初めから十世紀までは「唐詩と唐人の世界」と呼ばれている。唐詩と十世紀初頭にできた『古今和歌集』との間には、関連があり、共通点、類似点が存在している。このため、両者に見られる隠喩表現についての伝統的な研究では、古典短歌が唐詩、漢詩文を受容し、摂取することに集中しており、隠喩は唐詩・短歌の華麗さと言語技巧の表現であるとされている。

認知言語学の観点からでは、中日古典詩歌における隠喩の共同点と違う点には人々の物事の認知方略の同一性と相違性が表れてくる。隠喩に反映されるのは古代の人々の物事の認知方法、物事の視点、思惟方式などである。古典詩文の隠喩についての研究は、千年前の人々の思惟意識、認知方略、表現方法ないし価値観、世界観を察知する方法の一つである。

詩境は言語によって展開される。本研究では、言語レベルにおいては中日古典詩歌の隠喩の構成要素、隠喩構造の言語単位、典型的な隠喩の表現文型などをめぐり、系統的に検討することを研究の基礎とし、隠喩の概念拡張のレベルにおいては、中日古典詩文の空間的隠喩、存在的隠喩、構造的隠喩、共感覚的隠喩及び擬人的隠喩などの表現について、さらに研究を深める。また、中日古典詩歌の隠喩の基盤について、感覚的・知的・感性的な営みである認知的基盤と人間の

さまざまな経験からなる経験的基盤との両方面から分析する。よりの確に古典詩文の隠喩詩句を読み取るには、隠喩の認知メカニズムの探求が重要であり、本研究の要である。認知語用学の原理に基づき、類似性の把握、推論、協調原則、関連性理論の応用、異なった文化モデルなどいくつかの方面から古典詩文の隠喩理解のプロセスを考察し、隠喩解釈を支配する原理を提示しようという試みである。

概念隠喩の理論を活用し、千年前に作られた、今日に至っても人々に愛読される古典詩歌を認知の視点から分析することで、唐詩、短歌の意味を正確に理解し、隠喩言語の表層構造を通し、物事の本質を把握することができるようになると考えられる。同時に、古典詩歌の隠喩を対象とする研究は、今日の隠喩表現と対照的研究、すなわち、隠喩表現の通時態研究の展開には、基礎的なことであると考えている。

認知言語学的立場から、中日古典詩文の隠喩に対する研究は、言葉の修飾の機能という研究視点から、隠喩を根本的に問い直し、古代の人々の認知方略の探究への転向が実現するのではないだろうか。この意味においては、本研究は先端的な探索研究であると言えよう。

目次

序	1
摘要（中国語）	3
要旨（日本語）	5
第1章 序論	1
1.1 研究の背景	1
1.1.1 隠喩についての伝統的研究	2
1.1.2 現代の隠喩理論	2
1.1.3 詩文と隠喩	3
1.1.4 唐詩・短歌の隠喩認知	4
1.2 唐詩・古典短歌の関連及び先行研究	4
1.2.1 唐詩・短歌	4
1.2.2 唐詩・短歌の共通点	7
1.2.3 古典短歌と唐詩との歴史的関連	8
1.2.4 詩文の隠喩に関する伝統的研究	11
1.3 本研究の着眼点	13
1.4 本研究の目的と研究範囲	15
1.5 研究意義	16
1.6 本研究の構成	17

第2章 隠喩詩文の研究における認知理論の応用	20
2.1 はじめに	20
2.2 『古今和歌集』の比喩に関する研究枠組み・ 問題点	21
2.2.1 「喩」と「見立て」	21
2.2.2 短歌の隠喩表現と唐詩の受容	24
2.2.3 問題点	26
2.2.4 認知言語学の示唆	27
2.3 認知言語学としての隠喩研究の発展	27
2.3.1 比喩表現及び比喩の分類	27
2.3.2 隠喩研究の流れ	37
2.3.3 隠喩解釈の学説	50
2.4 認知の視点からみた唐詩・短歌の隠喩	58
2.4.1 概念隠喩に基づく「見立て」と「隠喩」 の統合	58
2.4.2 唐詩・短歌における隠喩の遍在	60
2.4.3 隠喩：観念意識の表現法	62
2.5 隠喩詩文に関する認知研究の展開	64
2.6 まとめ	66

第3章 唐詩・短歌における隠喩の言語構造	72
3.1 はじめに	72
3.2 隠喩構成の要素からの分類	73
3.2.1 三要素の学説	73

3.2.2 唐詩・短歌における隠喩三要素の言語化 ……	75
3.3 隠喩構造の言語単位からの分析 ……………	82
3.3.1 詩語の隠喩 ……………	83
3.3.2 『古今和歌集』における隠喩的枕詞・序詞 …	97
3.3.3 詩句の隠喩構造 ……………	101
3.3.4 詩文の隠喩 ……………	106
3.4 典型的隠喩詩文の表現文型 ……………	110
3.4.1 短歌における隠喩の構文 ……………	110
3.4.2 唐詩における隠喩の構文 ……………	122
3.5 まとめ ……………	127
 第4章 古典詩文における隠喩概念の拡張 ……………	131
4.1 はじめに ……………	131
4.2 隠喩概念の領域の拡張 ……………	132
4.2.1 カテゴリーと目標領域の構成 ……………	133
4.2.2 概念構造とイメージスキーマ ……………	134
4.2.3 詩における隠喩の概念化拡張 ……………	135
4.3 唐詩・短歌における隠喩概念の仕組み ……………	137
4.3.1 空間的隠喩表現 ……………	137
4.3.2 存在的隠喩表現 ……………	152
4.3.3 構造的隠喩表現 ……………	166
4.4 唐詩・短歌における共感覚表現 ……………	170
4.4.1 身体感覚の融合 ……………	171
4.4.2 共感覚：感覚概念の拡張 ……………	172

4.4.3 『古今和歌集』の共感覚表現	175
4.4.4 唐詩の共感覚表現	178
4.4.5 まとめ	181
4.5 擬人法：隠喩意識の表現	182
4.5.1 擬人法の先行研究	182
4.5.2 擬人化と隠喩	183
4.5.3 『古今和歌集』における擬人表現	186
4.5.4 唐詩における擬人表現	189
4.5.5 唐詩・短歌の共通表現	191
4.5.6 擬人化：柔軟な創造力	193
4.6 まとめ：詩文隠喩と概念認知	194
第5章 古典詩文に関する隠喩基盤の探り	200
5.1 はじめに	200
5.2 唐詩・短歌における隠喩の認知的基盤	202
5.2.1 感覚・知覚レベルの「比較」	202
5.2.2 類似性の抽出という認知能力	212
5.3 唐詩・短歌における隠喩の経験的基盤	222
5.3.1 言語共同体における慣習化	222
5.3.2 人間の身に付けた経験及び観念	245
5.4 唐詩・短歌における隠喩の共通性	253
5.4.1 短歌の隠喩と中国詩の受容	253
5.4.2 隠喩基盤の一致性	255
5.4.3 古典詩文から見た隠喩の本質	257

第6章 隠喩詩文の解釈に関する認知メカニズム	264
6.1 はじめに	264
6.2 隠喩詩文の新しい発想と理解の多義性	266
6.3 類似性の把握と隠喩詩文の理解	268
6.3.1 類似性を見つける人間の認識能力	269
6.3.2 類似性を識別する基準	270
6.3.3 詩文隠喩の類似性の把握	271
6.3.4 まとめ	276
6.4 隠喩詩文の理解と連想との関連	277
6.4.1 認知連想のモデル	279
6.4.2 詩的連想、言語外知識の活用	279
6.4.3 まとめ	286
6.5 隠喩詩文の読み取りにおける推論の応用	286
6.5.1 推論・類推・推意の区別	286
6.5.2 推論のプロセス	287
6.6 「協調の原則」の応用	289
6.6.1 協調の原則	289
6.6.2 コミュニケーションとしての唐詩・短歌	290
6.6.3 「協調の原則」と隠喩詩文の理解	292
6.6.4 まとめ	295
6.7 関連性理論による隠喩詩文の解釈	295
6.7.1 認知語用論としての関連性理論	295
6.7.2 表意を決定する諸要因	297

6.7.3 コンテキストの把握と推意	299
6.7.4 まとめ	313
6.8 異文化モデルから見た詩文隠喩の表現	314
6.9 まとめ	320

第7章 結論

7.1 本研究の総括	325
7.1.1 古典詩文の理解と認知言語学	325
7.1.2 唐詩・短歌の隠喩に関する研究の視点	327
7.1.3 認知意味での隠喩の写像関係	329
7.1.4 古典詩文における隠喩の認知機能	331
7.1.5 詩文隠喩の解釈	332
7.1.6 本研究の現実的意義	333
7.2 今後の課題	335

参考文献

参考文献	339
------	-----

あとがき	355
------	-----

第1章 序 論

1.1 研究の背景

隠喩についての研究は弁論術、修辞学などの伝統的研究から、認知意味論の隠喩研究へと転向しており、認知の視点から隠喩を研究するのは当今の主流である。隠喩は人間により創られ、人間は世界の中で様々な相互作用や内的経験を持ちながら生きる認知主体である。認知言語学とは、そうした人間の認知的営みという包括的な枠組みから言語に焦点を絞り、意味と形式や認知と言語の静的・動的な様相の説明を試みる言語研究の総称である。言語の規則的形式面にとらわれず、高次認知活動の一つとして言語を探究する認知科学の言語研究領域である。隠喩は二つの事物、概念の間に類似性が成り立つとき、一方の形式で他方を表現することを言う。単にことばの問題ではなく、ある概念領域を別な概念領域をもって理解するという、人間の認知の営みである。

現代の認知言語学の新しい視点で、中日古典詩文の傑作である唐詩・『古今和歌集』の隠喩詩文を検討することが、本研究の目的である。